

## 荒尾市上下水道事業運営審議会 議事録要約版

日時：平成 31 年 2 月 27 日（水）15 時 00 分～16 時 30 分

場所：荒尾市大島浄化センター会議室

出席委員（敬称略）：

近畿大学 経営学部 教授	浦上 拓也
有明工業高等専門学校 創造工学科 准教授	加藤 浩司
女性ネットワーク荒尾	深浦 淳美
荒尾商工会議所	江崎 光恵
荒尾市食生活改善推進員協議会	田頭 スエカ
荒尾市地区協議会会長会	田中 一大
荒尾市金融団	本田 純也
新日本有限責任監査法人	西 秀雄
荒尾市総務部長	石川 陽一

配布資料： 資料－1 これからの下水道について

### 1. 開会

（事務局）本日は上下水道運営審議会にお集まり頂きましてありがとうございます。本日は、本年度に行われました国土交通省によるFS（フィジビリティスタディ：実現可能性調査）の内容の説明を致します。荒尾市の処理場施設の老朽化の状況も踏まえて説明させていただきますので、よろしくお願ひします。  
これより荒尾市上下水道事業運営審議会を開会します。

### 2. 議題

#### （1）これからの下水道について

（議長）これからの下水道について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）＜資料-1 これからの下水道についての説明＞

（議長）下水道について分からないことも多々あると思いますので、今日ご説明して頂いた内容も踏まえまして、委員の皆様のご質問ご意見をお伺ひして、下水道に対する知識を共有できればと思います。

（委員）15 ページで、八幡処理区の供用が昭和 49 年で認可が平成 6 年になっているのはどうしてでしょうか。

(事務局) 八幡処理区は元々、コミュニティ・プラントとして日立造船と荒尾市土地開発公社で下水道を整備、管理されておりました、実際に下水道が開始されたのは昭和 49 年になります。しかし、下水道事業認可区域に入れ、当時の下水道課が管理し始めたのが平成 6 年になるため、このような表記となっています。

(委員) 事業計画区域で未整備の場所は、今も進んでいるのでしょうか。

(事務局) 少しずつ工事を進めています。但し、今工事を行っている地区は、勾配のとれないような場所であるとか、県道や国道で非常に交通量が多い中工事をするため、また、震災の影響で震災経費というものが新たに作られておりますので、今までよりも費用が割高になっております。さらに、来年度は消費税も上がるため、なかなか整備が進まない状況にあります。

(委員) 当初は大島浄化センターを建設した後も人口が増加する予想が出ていたというお話でしたが、実際は減少していますので、14 ページの事業計画区域は、人口の増加を見越して計画を立てられているのでしょうか。それとも、現状を基に計画を立てられているのでしょうか。

(事務局) 人口が減少する計画で作っています。

(委員) 限界集落になるような場所で、今後整備予定の場所はありますか。

(事務局) 荒尾市の下水道の全体計画区域というのは、昔の市街化区域の部分になります。今は市街化区域が廃止されておりますので、2 年ほど前に、財政面も考慮した効率的に行える整備地区の試算を荒尾市全体で行いました。やはり国道や処理場から遠い場所は難しく、整備する場所については検討したいと考えています。

(委員) 都市機能誘導区域と居住誘導区域の他にも整備予定の場所はありますか。

(事務局) 誘導区域外で認可区域に入れている場所もあります。しかし、都市機能誘導区域に含まれているものの、人口減少のことを考えると推計値ですが、あまり効率の良い整備ではない地区もありますので、都市計画の考えと市の下水道計画を今後どのようにリンクさせていこうか悩んでいるところです。現状で、都市機能誘導区域まで認可区域を広げるか検討しましたが、人口減少のこともありますし、認可区域に入れて約束すると合併浄化槽の補助金も出なくなりますので、今後考えていかななくてはなりません。

(委員) 4 ページで「永久に継続しなければならない」とありますが、法律等で決まっているのでしょうか。

(事務局) 法律で決まっていますが、1 軒しか無いから下水道を廃止します、ということは倫理的には言えないということです。

(委員) 多くは利用者負担というかたちになるのでしょうか。

(事務局) そういうことになります。しかし、1軒の方だけで負担するとなると、とても費用の面は見られませんので、全体で見るということになれば、使用料金を上げる等の問題が出てくると思います。

(議長) 下水道の場合、水道のような給水義務が無いですけれども、維持していくしかないのでしょうか。

(事務局) 下水道の場合、自然流下で全ての管が処理場にたどり着くため、途中の場所で人がいなくなったとしても、上流に何世帯かいる限り配管を止める訳にはいかないという事情もあり、整備が終わった場所の配管を止めることは想定しておりません。

(議長) 水道と下水道は似ているところもありますが、そもそも成り立ちが違います。水道は、人間は水がある場所ではか衛生的な生活を送れず生きられませんので、水を供給することを目標に始まったものです。ただし下水道の場合は、公共用水域と言われる河川や海の環境汚染が進んだことから始まったものです。

説明の中で、小規模な自治体は経費回収率が低く経営状態が悪い、大都市であれば経営状態が良いとありましたが、田舎の方にある小さな下水道事業というのは、小規模ということだけではなく、立地条件とか下水道事業の開始時期が遅くコストが高い等の理由があって、経費回収率が低く、問題を多く抱えている場合があります。荒尾市の場合、炭鉱の町で古くから発展していて、下水道は早くから整備されているため、他の中小自治体と比べても老朽化が早く、より深刻です。

下水道の場合扱っているものが汚水で、硫化水素が発生するとコンクリート構造物や下水道管は脆くなりますので、水道よりも後に整備されたとしても、水道よりも先に維持管理や更新を進めていかないと、ある日突然下水道が止まってしまうことになるかもしれません。そして、元々下水処理場は更新を前提に作られておらず、場所の問題もあるため、早く広域化して別の場所に流さないと駄目になるという切羽詰った状況ということです。

世の中人口減少が進んで、技術者の育成も苦勞しているなかで、今後施設の維持管理をしていくためには広域化もしくは官民連携によって解決を図らないと、もう他に方法は無いということまできています。幸いにも荒尾市では国土交通省からの支援を得られて、かつ、既に一部業務委託が進んでいますので、さらに先に進めて、荒尾市の下水道については市民の皆さんに、安全宣言を出せるチャンスがあるのではないかと思います。

しかし、まだ下水道に接続されていないご家庭もありますので、どうぞご理解いただいて、安定的な収入に少しでも貢献していただくかという部分と、当然経営効率化に向けて企業局は色々可能性を探っていかなければいけません。

(委員) これからの総工費については今から検討されるのでしょうか。

(事務局) 荒尾市では、ストックマネジメント計画を平成 30 年度から 2 か年かけて策定しております。基礎調査によると、多額な投資をしなければ、施設の健全な維持管理ができないという試算が出ています。但し、多額な投資は健全な経営を難しくし、今後、収支バランスも考えたアセットマネジメントの策定も考えていかなければいけないということになります。

(議長) 多額な投資を続けていかなければ下水道施設の維持が非常に難しいということで、汚水について使用料でご負担いただくのか今後検討していかなければいけません、かなり大変な事業ということです。

(事務局) まずは認可区域の未整備地区を終わらせて、全体計画区域の未整備地区については、改築更新の方にお金を充当させなければならない事もあり、今後検討させて頂きたいと考えています。

(議長) 他市の例で言いますと、どうしてもコストと得られる収入を考えると採算が合わず、全ては無理だろうという話がありました。しかし、一度掲げたものを止めるというのはなかなか難しいですが、整備されていない場所ほど問題が多くコストが掛かり、さらにどんどん施設が古くなるため、そうは言っていられない時代にそろそろ来ております。

また、これからの 10 年は社会全体の人口構成や年齢構成等、さらに大きな変化が起こり得ます。今格差が多くなってきていて高齢世帯の貧困化等問題になっていますが、10 年後はさらに進んでいると思われま。そうすると、料金改定を先延ばしにするなら、先の貧困世帯の方が負担できるのかという別の問題もありますので、今手を打てるのは早めに手を打たないと、先延ばしにするほど状況が悪く得策ではないという時代に来ています。

(事務局) 水道と下水道の違うところですが、水道は水道管自体に圧がかかって、皆さんのお宅に水を届けておりますので、途中で事故が起こった時は断水し、何かが起こったというのが分かります。道路上で水が吹き上がっている映像をニュース等で目に触れる機会もあると思います。しかし下水道の場合、家から流れた下水は自然流下で、流れに任せて下水処理場に流れていくというのが原則ですから、途中の下水道管や下流の下水処理場が壊滅状態でも皆さんの家では流れてしまうため、ピンと来ない部分があります。極限までになったものが博多駅前の道路陥没の事故で、あそこまでにならないと気づかない施設もあつたりします。下水道施設の老朽化はなかなか伝えるのが難しいですが、私達も伝えていかないことには施設の投資について理解を得られないだろうということで、水道ビジョンみたいに下水道事業についても、下水道事業の将来を考えて策定した経営戦略を、3 月にホームページで公表します。

(議長) 水道以上に下水道を使っているという感覚が全くありませんので、その辺りの理解を得るのはものすごく難しいですが、これだけ大変な状況だということを、市民の皆様がいち早く理解して頂く必要があります。

(事務局) 水道事業包括委託という良い見本がありますので、下水道も民間委託をどこまでできるか検討していきたいです。1 番心配しているのが技術力の問題で、今水道事業の方は民間委託を行

い、組織の中で技術力が根付いていくのが見えるようになっていっていますので、下水道事業も同様に技術力を根付かせて、異動してきた職員はそこから吸収できるようにし、それを続けながら、50年100年と事業を続けられようにならないかと思っていますところ。

(議長) 全国的に水道、下水道の職員はどんどん減らされていて、上下水道で組織統合している自治体は特に減らされています。私が見たところ、給水人口が5万人未満の自治体では技術者と事務職の職員数が逆転して、余計に技術者の数が減ってきている傾向があります。これから更に、技術的に将来計画を作っていないといけないのに技術者が足りないので、事業継続がかなり難しく、基幹管路の更新計画を立てている給水人口が5万人未満の自治体は、全体の30%ぐらいしか無いという切実な状況です。ですので、将来この問題を解決していくために、官民連携の検討を荒尾市はいち早く着手するという事です。人口が減っていくと当然人もいなくなりますけれども、公共事業だけでなく民間企業も人がいなくなりますので、いかにして官民連携を行い、官民連携の組織の中で事業継続を可能にするための若手人材の育成、確保をどうしていくか、という課題解決をまさに水道事業包括委託で検証されていますので、その仕組みを下水道にこれから生かせないか検討して、そこで出てきた結論を持って、次のステップに下水道事業が移れる可能性がありますので、ぜひご理解頂ければと思います。

(事務局) 本当は広域化というもう一步先を見据えた計画を、県規模、地域規模で考えていかないと全国的に、下水道事業そのものが危ういのではないだろうかと考えております。しかし、荒尾市の下水道施設も大変古くなって危機的状況でございますので、まずは自分達で素早くできる官民連携の道が、身近な下水道の計画になってくるのではないだろうかと思っています。次回の審議会の時には、より具体的な中身についてもお話できたらと考えていますので、よろしくお願いいたします。

(議長) 大変な状況というのはご理解頂きましたでしょうか。それでは議事を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

### 3. 事務連絡

#### ・今後の事務局運営について

(事務局) 今後は国土交通省のFS（フィジビリティスタディ：実現可能性調査）の第2弾と、次期事業に向けた検証を行い、荒尾市の基本方針を含めたところで、次回審議会で説明させて頂いて、皆様から頂いた意見を反映させて頂ければと思っています。次回は7月上旬を目途に実施させて頂きます。

(委員) 異議ありません。

### 4. 閉会

(注) 本議事要約版は、今後字句等の修正があり得ることを念のため申し添えます。